

全学モジュール科目案内

カテゴリー	科学/技術の恩恵と限界	モジュール科目区分	全学モジュール I 科目
テーマ名	17-A6 核兵器のない世界を目指して		
推奨する全学モジュール II 科目テーマ名	私たちと核兵器廃絶	核兵器廃絶へのアプローチ	
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	中村 桂子	責任部局	核兵器廃絶研究センター
趣旨	<p>広島・長崎の被ばくから71年を経てなお核兵器の廃絶と恒久平和の実現は人類の悲願であり続けている。その中で世界唯一の被ばく医科大学を創基に持つ長崎大学として「核なき世界の実現」は大学の存在意義の根源に関わる課題であるが、長崎大学に学ぶ学生としても共有すべき認識となることを願う。</p> <p>本モジュールでは被ばく地長崎で、広島・長崎の悲劇を二度と繰り返さないために、世界から核兵器を廃絶するために必要な具体的な知識やアプローチを、様々な角度から学び、考察する。その際、国際政治学・国際法・社会学・倫理学・教育学・医学・平和学など幅広い学問分野の基礎にたつて学び、考察する。</p>		
学生の皆さんへのメッセージ	<p>核兵器の問題をめぐる、いま世界は大きな転機を迎えています。核兵器のない世界を求める世界の多くの国の支持を受け、核兵器禁止条約の交渉会議が始まろうとしています。しかしその一方で、世界には未だ約1万5千発以上の核兵器が存在し、核兵器に依存する国々がその政策を変える兆しは見えません。被ばく者をはじめ、世界中の市民が訴えてきた核兵器廃絶がなぜ未だに実現できないのでしょうか。そして、どのようにすれば実現できるのでしょうか。本モジュールでは、そうした素朴な「なぜ」に答えるとともに、「過去」「現在」「未来」を結びながら、核兵器廃絶への具体的な道のりをみなさんと考えていきたいと思います。長崎大学に学んだことの証となるような特色のあるモジュールです。</p>		

科目名	担当者名	概要	キーワード
核兵器とは何か	中村 桂子	「核兵器」とは何か、その基本的な仕組み、広島・長崎での実際を含むその効果、兵器そのものや抑止概念、核兵器政策、運用体制の歴史の変遷と現状、核軍備管理・軍縮・不拡散努力の歴史と現状などを学ぶ。	核兵器、軍備管理、軍縮、不拡散、抑止
国際社会と平和	近江 美保	「核兵器」はなぜ生まれ、今も維持されているのか。その背景にある国際社会の特徴と「平和」を実現するための様々な取組みについて学び、現代のグローバルな社会における平和とは何かを多様な視点から考える。	国際社会、平和、紛争、安全保障、人権
被ばくと社会	鈴木 達治郎 奥野 正太郎 平野 伸人 桐谷 多恵子	長崎における被ばくの歴史、報道にみる社会への影響、被ばく体験の継承の実際を基礎知識として学び、被ばく体験の継承における問題点について考える力を養うために学生同士で話し合う。	原爆、報道、被ばく体験継承

全学モジュールの目標および授業編成の視点との対応	汎用的技能・態度									知識・理解			※授業編成の視点			
	学ぶ力		考える力	関わる力	表現する力		(基盤力)									
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	A	B	C	D
自主的探究	◎	◎	◎	○	○	○	◎	○	○	◎	○	○	○	◎	◎	○
自己成長志向	◎	◎	◎	○	○	○	◎	○	○	◎	○	○	○	◎	◎	○
批判的思考	◎	◎	◎	○	○	○	◎	○	○	◎	○	○	○	◎	◎	○
相互啓発志向	◎	◎	◎	○	○	○	◎	○	○	◎	○	○	○	◎	◎	○
自己表現	◎	◎	◎	○	○	○	◎	○	○	◎	○	○	○	◎	◎	○
行動力	◎	◎	◎	○	○	○	◎	○	○	◎	○	○	○	◎	◎	○
社会貢献意欲	◎	◎	◎	○	○	○	◎	○	○	◎	○	○	○	◎	◎	○
日本語力	◎	◎	◎	○	○	○	◎	○	○	◎	○	○	○	◎	◎	○
英語力	◎	◎	◎	○	○	○	◎	○	○	◎	○	○	○	◎	◎	○
基盤的知識	◎	◎	◎	○	○	○	◎	○	○	◎	○	○	○	◎	◎	○
環境の意義	◎	◎	◎	○	○	○	◎	○	○	◎	○	○	○	◎	◎	○
多様性の意義	◎	◎	◎	○	○	○	◎	○	○	◎	○	○	○	◎	◎	○
容を取り扱う 人文科学の内	◎	◎	◎	○	○	○	◎	○	○	◎	○	○	○	◎	◎	○
容を取り扱う 社会科学の内	◎	◎	◎	○	○	○	◎	○	○	◎	○	○	○	◎	◎	○
現代的な話題 を取り入れる	◎	◎	◎	○	○	○	◎	○	○	◎	○	○	○	◎	◎	○
アクティブ・ラーニングの活用	◎	◎	◎	○	○	○	◎	○	○	◎	○	○	○	◎	◎	○
◎(特に重視)の数	3	3	2	1	0	0	3	0	0	3	0	0	0	2	2	0
○(重視)の数	0	0	0	1	2	2	0	1	1	0	1	2	1	1	1	3

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

全学モジュール科目案内

カテゴリー	科学/技術の恩恵と限界	モジュール科目区分	全学モジュールⅡ科目
テーマ名	17-a9 私たちと核兵器廃絶		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	中村 桂子	責任部局	核兵器廃絶研究センター
趣旨	<p>本モジュールでは、核問題に多角的にアプローチすることを通じて、自分と核問題の現在のなかかわりを見つめ直し、より良い未来を創るための方途に一人一人が考察を深めていくことを目指す。私たちの現在の社会や生活と深いかわりを持つ<文学・芸術>を切り口に、核兵器の存在や使用が私たちの認識や考え方にどのような影響を与えてきたかを検証する。<科学>の切り口では、核兵器と原子力発電の関係など、知っているようで知らない核軍縮・不拡散問題を科学的な視点から読み解いていく。さらに、<市民運動>の切り口では、「核兵器のない世界」をめざした日本と世界の人々の過去と現在の取り組みを知ることで、私たち一人一人には何ができるのかを探っていく。モジュールⅠを受講していることが望ましいが、必須ではない。</p>		
学生の皆さんへのメッセージ	<p>「核兵器廃絶」と聞いて、あなたはどのようなイメージを持っていますか？「難しそう」「なんとなく怖い」「理想的だけれど、そんなこと無理でしょ」「自分にできることなんかない」——。そんな声が聞こえてきそうです。</p> <p>核兵器の問題というのは、本当に「自分とは関係ない、遠い世界のこと」なのでしょうか。</p> <p>ちょっと立ち止まって考えてみよう——それが本モジュールの目的です。核兵器の問題が「過去」の問題ではなく、まさに今の私たちと密接な関係があることをさまざまなアプローチから検証していきます。新しい「発見」がたくさんあることでしょ。被爆地長崎の特色溢れる実践的なモジュールです。</p>		

科目名	担当者名	概要	キーワード
文学・芸術と核兵器	広瀬 訓 山上 徹二郎 赤木 かんこ	文学、絵画、映画、コミック、音楽等に平和、紛争と核兵器の存在および使用が与えた影響を探り、それらが様々な芸術の中でどのように描写されてきたかを鑑賞、考察することで、核兵器が人々の間でどのように認識、位置づけされてきたかを検討すると同時に、芸術が核兵器の存在に与える影響についても考える。	核兵器、芸術、認識
核と平和を科学する	鈴木 達治郎 冨塚 明	核軍縮や核不拡散問題は、科学的な基礎知識が加わることでいっそう理解が深まる。ここでは、核兵器や原子力発電、両者に大きく関連するウラン濃縮とプルトニウム生産、核不拡散を検証するしくみなどを平易に解説しながら、核と平和の関係を科学的な視点も交えて考察する。	核兵器、原子力、濃縮、再処理、検証システム、IAEA、CTBTO
市民運動・NGOと核兵器廃絶	中村 桂子 川崎 哲	世界の核軍縮努力のなかで、市民運動・NGOの果たす役割はますます重要になっている。対地雷禁止条約などの成功例とともに、核兵器廃絶のために果たしてきた被ばく者の役割、市民運動・NGOの役割を学ぶ。とりわけ、「被ばく者なき時代」の到来を前に、次世代を担う若者の役割や可能性について考えを深める。	市民運動、NGO、核兵器廃絶、被ばく者、長崎県

全学モジュールの 目標および授業編成の 視点との対応	汎用的技能・態度									知識・理解			※授業編成の視点			
	学ぶ力		考える力	関わる力	表現する力		(基盤力)			⑩	⑪	⑫	A	B	C	D
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨							
自主的探究	○	◎	◎	◎	◎	○	○	◎		○		○	◎	○	◎	◎
自己成長志向	○	◎	◎	◎		○	○			○	◎	◎			○	○
批判的思考	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		○	○		○		○	◎	◎
相互啓発志向																
自己表現																
行動力																
社会貢献意欲																
日本語力																
英語力																
基盤的知識																
環境の意義																
多様性の意義																
容を取り扱う 人文科学の内																
容を取り扱う 社会科学の内																
現代的な話題 を取り入れる																
アクティブ・ラ ーニングの活用																
◎(特に重視)の数	1	3	3	3	2	1	1	1	0	0	1	1	1	0	2	2
○(重視)の数	2	0	0	0	0	2	2	0	1	3	0	2	0	2	1	1

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

全学モジュール科目案内

カテゴリー	科学/技術の恩恵と限界	モジュール科目区分	全学モジュールⅡ科目
テーマ名	17-a10 核兵器廃絶へのアプローチ		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	広瀬 訓	責任部局	核兵器廃絶研究センター
趣旨	<p>広島・長崎の被ばくから 70 年余を経てなお核兵器の廃絶と恒久平和の実現は人類の悲願であり続けている。その中で世界唯一の被ばく医科大学を創基に持つ長崎大学として「核なき世界の実現」は大学の存在意義の根源に関わる課題であるが、長崎大学に学ぶ学生としても共有すべき認識となることを願う。本モジュールでは被ばく地長崎で、広島・長崎の悲劇を二度と繰り返さないために、世界から核兵器を廃絶するために必要な具体的な知識やアプローチを、様々な角度から学び、考察する。その際、国際政治学・国際法・社会学・倫理学・教育学・平和学・メディア論など幅広い学問分野の基礎にたつて学び、考察する。</p>		
学生の皆さんへのメッセージ	<p>2009年4月、アメリカのオバマ大統領は「核兵器のない世界」をめざす、と世界に訴えました。各国の指導者層からもそれを支持する声が次々にあげられました。多くのデータが、核兵器廃絶を求める人々が世界のマジョリティ(大多数)であることを示しています。しかし、世界には未だ約1万5千3百5十発もの核兵器が存在し、その廃絶に向かう歩みは遅々としています。被ばく者をはじめ、世界中の市民が訴えてきた核兵器廃絶がなぜ未だに実現できないのでしょうか。そして、どのようにすれば実現できるのでしょうか。本モジュールでは、そうした素朴な「なぜ」に答えるとともに、「過去」「現在」「未来」を結びながら、核兵器廃絶への具体的な道のりをアカデミックに考えていきたいと思います。長崎大学に学んだことの証となるような特色のあるモジュールです。</p>		

科目名	担当者名	概要	キーワード
核兵器廃絶と教育	全 炳徳 高瀬 毅 桐谷 多恵子 山口 剛史	核兵器廃絶に向けての取り組みや歴史的な背景等について、次世代の人たちにどう伝えるべきであるかについて考察する。特に、初等・中等教育における核兵器および被ばく体験の扱われ方の実際とその問題点、あるべき姿について考える。	核兵器、平和教育、小・中学校、被爆写真、長崎県
メディアと平和	森川 裕二 山口 響 普久原 均 小倉 利丸	ジャーナリズムは、21 世紀に入ってから冷戦後世界と日本の「核政治」をどのように報道したのか。3.11 後に矛盾を浮彫りにした、核開発と原子力平和利用を分離して報じてきた主要メディアの対応を批判的に整理し、「核なき世界」の課題について考える。	核政治、冷戦後、メディア、ジャーナリズム、長崎県
核軍縮の法と政治	広瀬 訓 鈴木 達治郎 新井 勉	核兵器の廃絶へ向けての核軍縮を取り巻く国際政治と国際法の理論と現実について考察すると同時に、核軍縮交渉の現状とその問題点を検討し、核兵器廃絶へ向けての現実的なアプローチを考える。	軍縮、不拡散、軍備管理、外交交渉、国際法、長崎県

全学モジュールの目標および授業編成の視点との対応	汎用的技能・態度									知識・理解			※授業編成の視点			
	学ぶ力		考える力	関わる力	表現する力		(基盤力)			⑩	⑪	⑫	A	B	C	D
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨							
	自主的探究	自己成長志向	批判的思考	相互啓発志向	自己表現	行動力	社会貢献意欲	日本語力	英語力	基盤的知識	環境の意義	多様性の意義	容を取り扱う 人文科学の内	容を取り扱う 社会科学の内	現代的な話題を取り入れる	アクティブ・ラーニングの活用
核兵器廃絶と教育	◎	○	◎		◎	◎	◎	○		○	○		○	◎	○	○
メディアと平和	◎	◎	◎	◎			◎			○				◎	◎	
核軍縮の法と政治	◎		◎	○		○	◎			◎	○	○		○	◎	○
◎(特に重視)の数	3	1	3	1	1	1	3	0	0	1	0	0	0	2	2	0
○(重視)の数	0	1	0	1	0	1	0	1	0	2	2	1	1	1	1	2

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目